



発行

財団法人 東京都生涯学習文化財団
東京都埋蔵文化財センター

〒206-0033

多摩市落合1-14-2

☎ 042-373-5296

東京都埋蔵文化財センター報 No.59

平成15年10月31日

<http://www.tef.or.jp/maibun/>



遺失物・埋蔵物・埋蔵文化財

総務課長 土田立夫

先日、ある建築現場から、小判二十枚が土中から発見された。発見者はM建設会社に雇われた作業員Nさん、この土地の所有者はO不動産会社である。この場合、小判は誰のものとなるか。昭和三十一年に問題となった「銀座の小判事件」の事例である。

この事例については、民法二四〇条（遺失物の拾得）、同法二四一条（埋蔵物の発見）、文化財保護法の適用関係が問題となる。まず、民法二四〇条の適用の場面では、所有者不明のとき、拾得者がその所有権を取得することになる。所有者が知れた場合は、遺失物法により、拾得者は五分から二割の報労金を受け取ることになる。いずれも、その権利者は、N作業員である。

一方、これが二四一条の埋蔵物に該当し且所有者不明のとき、①包蔵物が発見者の所有物である場合は、発見者がその所有権を取得し、②包蔵物が他の者の所有物である時は、発見者と包蔵物の所有者が折半してその所有権を取得することになる。

しかし、これが埋蔵文化財（後日、認定）であったらどうか。この場合、文化財保護法が適用されるが（同法は遺失物法を準用）、所有者不明のときは都道府県に帰属し、この際の発見者と土地所有者の権利については、両者が折半して価格相当の報償金を受け取ることとされている。事例では、N作業員及びO不動産会社が報償金を受け取ることになる。

事例の場合、通例、土中からの発見という観点から埋蔵物とされることになる。以上は、偶々、発見したものであるが、埋蔵物の発掘作業中に発見された場合は事情を異にする。この場合、発見者は、発掘調査機関等であり、よって、作業員には何らの権利は発生しない。また、通例事業施行者である土地所有者の以上の取得権利については、発掘事業委託契約の際、発見物に関する権利放棄条項を設けることで対応している。

遺跡だより 67



多摩ニュータウン No.9 遺跡

今回紹介します多摩ニュータウン No.9 遺跡は、現在も造成が続く稲城市の若葉台に所在しています。

遺跡は京王相模原線若葉台駅から北北東約800m、標高およそ90mの台地上及びその斜面に広がっています。遺跡北側崖下は、上谷戸（かさやと）と呼ばれる、小さな集落と水田からなり、三沢川の支流である上谷戸川が流れ、縄文時代以降の生活もこの水源に支えられていたものと考えられます。

これまで4次に亘る発掘調査が実施され、縄文時代を中心に多くの成果が得られています。その中でも縄文時代中期の住居跡は86軒を数え、多数の埋甕、焼土跡、ピット群と土器捨て場が見つかっています。住居

跡と土器捨て場からは、多量の土器、土製品、石器が出土し、中でも100点近い土偶が出土したことが本遺跡の特徴の一つと言われています。

土偶は、平成12年に東京都指定有形文化財(考古資料)に指定されており、現在東京都埋蔵文化財センター展示ホールにて公開されています。

今回の調査は1月から開始され、第5次調査では、おもに集落の東側が調査され、切り合い・重複を含めた住居跡47軒、竪穴状遺構1軒、埋甕7基、焼土跡10基、集石3基、ピット約200基が調査されました。今回の調査で、およその集落の範囲を確定することができたことも大きな成果の1つと考えられます。

調査区南東側斜面下方には土器捨て場が検出され、2mを超える遺物の包含層の堆積も確認することができました。住居跡や土器捨て場から



102号住居跡内土偶出土状態

出土した遺物も多種多様で、土器、土製品、石器、礫等がおよそ6万点出土しています。

縄文土器は早期後半から中期末葉の土器が出土し、特に中期では完形に近い土器も数多く出土しています。

土偶は現在までに6点が確認され、当時の耳飾りである耳栓や、土製円板、ミニチュア土器も出土しています。石器は打製石斧の多さが目立ちますが、石鏃、磨製石斧、磨石、石皿等も出土しています。

本遺跡の住居跡の数は、今回の調査を含めると130軒を超えること、土偶も100点を超えることが明らかになりました。これらの遺構と遺物のほとんどは、勝坂3式から加曾利E4式期に構築、作製されたものと考えられることから、約500年にわたって



112号住居跡出土の勝坂式土器

竪穴住居群が構築され続けた拠点的な集落であったと考えられます。

当遺跡の南西の多摩ニュータウン No.471遺跡では、五領ヶ台式期から勝坂2式期まで集落が営まれていました。また西側約1kmの高台にある多摩ニュータウン No.520遺跡では、勝坂1式期から加曾利E3式期まで集落が営まれていました。

このように当遺跡の周辺には縄文時代中期の遺跡が多く、当時の発展的な活動の様子を垣間見ることができます。

10月からは水洗いと注記を含む整理作業が開始されました。今後の整理作業に御期待下さい。

(竹田 均副主任調査研究員)
(金持健司副主任調査研究員)



112号住居跡

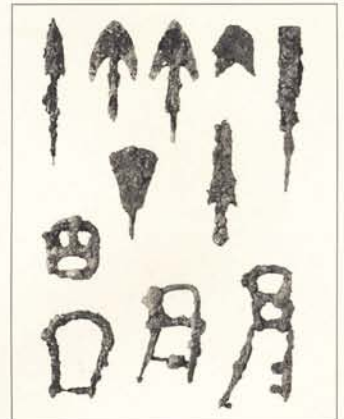
古代東国の鉄

鉄は現代に暮らす私たちにとって、最も身近な金属であり、無くってはならないものです。洋の東西を問わず、遠く古代に生きた人たちも鉄の恩恵によって、さまざまな道具やモノを作りだすことで、高度な文明社会を築いたと考えられています。

文化財講座〈49〉
くろがね物語 一巻一

ところで、鉄をつくる原料は大きく二種類に分かれます。一つは砂鉄で、もう一つは鉄鉱石です。ほかに隕石に含まれる鉄もありますが、大部分がこの二種類です。あの宮崎駿監督のアニメ『もののけ姫』の中で、エボシ御前が女達とともに操業していたのが、砂鉄を原料としたタタラ製鉄です。この製錬技術は西日本では、すでに古墳時代後期にあらわれ、しだいに東日本へも広まりました。美しさを誇る日本刀も、タタラ技術なしでは誕生しえなかったとさえ、言われています。

平安時代の『延喜式』という書物には、関東地方の特産物として、馬の轡や鞍橋などが記されています。奈良時代以降、東国では鉄や鉄器の生産が活発化したため、中央への税



多摩ニュータウン出土の鉄器

の品目として、優れた鉄製品が選ばれたのだと想像されます。私たちが長年調査を実施してきた、多摩丘陵の古代集落からも、農具類や武器・馬具類等が検出されています。

さらに、鋼や鉄器を生産した鍛冶遺跡も、これまでに多く発見されています。とくに十世紀以降、これらは急激に増加する傾向を見せます。この頃、常陸国では土着の武士団の棟梁である平将門が朝廷に反乱を起し、東国の独立運動を展開しています。ほどなく他の武士団によって鎮圧されるものの、この時期を境に東国は独自の社会を形成しはじめたのです。その原動力のひとつが、まさしく鉄の利器と言っても過言ではありません。

このシリーズでは、発掘調査によって明らかになりつつある東国の鉄文化の様相に関して、出土遺物を中心に探っていきたいと思います。

(松崎元樹主任調査研究員)

保存科学室「こぼれ話」(三)

木製品の保存処理について

前回につづいて、当センターの木製品の保存処理方法を紹介します。

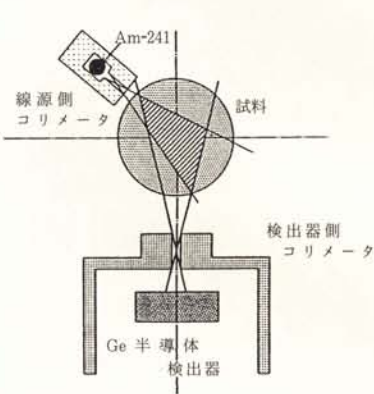
通常一年間かかる木製品の保存処理期間を短縮する方法を検討し、平成三年度以降共同研究をおこなった前東京都立アイソトープ総合研究所の鈴木隆司他の「レイリー/コンプトン散乱比法による水浸木材のPEG含浸率測定」による研究成果を活用しました。この研究は、含浸中の木材内部に含まれるPEG溶液の濃度を測定できる装置の開発です。

この測定結果から、3〜5cm四方の水浸木材では、広葉樹・針葉樹とも約1ヶ月、10cm四方の木材では約2ヶ月で各%のPEG濃度が恒量に

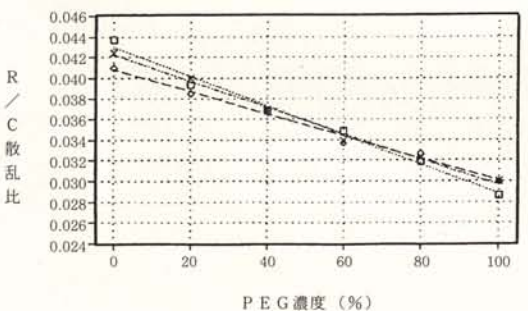
達することがわかりました。このことは、厚さ3〜5cm以内の木製品だと1ヶ月ごとに濃度を変え作業が可能になり、20〜100%まで約5ヶ月間で含浸作業が終了します。

このため、木製品を木材の厚さごと分類し、別々の容器で含浸作業をすることにしました。またPEG溶液の約20〜50%までは常温で、60%の濃度からは60℃の含浸装置の中で含浸します。こうすると常温で低濃度、含浸装置で高濃度の含浸作業が併行して可能になり、作業効率が良くなりました。

(上條朝宏主任調査研究員)



実験装置配置図



校正曲線

鈴木隆司他 (1992) より引用

文化財講演会

第1回は7月12日(土)

東京大学文学部大貫静夫氏による「東アジアの土器の始まり」の講演と、「麒麟はどこからきたか」を上映しました。

中国からシベリアの土器のこと、縄文土器の出現期の気候や動植物の生態に当時の生活ぶりを交えて話されました。参加者は、137名でした。

第2回は9月10日(水)

東京都教育庁の可児通宏氏による「縄文土器の起源」の講演と「海の恵みと日本人」を上映しました。

縄文土器のルーツを求めて、中国大陸、シベリアとの関係を各地の土器や文様等から辿る話でした。参加者は平日にもかかわらず、181名でした。

第3回は10月11日(土)

近畿大学文学部高宮いづみ氏による「アフリカ大陸の土器の始まり」の講演と、「エジプトの遺跡」を上映しました。参加者は128名でした。

土器作り教室

7月31日(木) 講義・土器成形

8月1日(金) 土器整形・施文

8月23日(土) 野焼き

親子ふれあいキャンペーンの事業の一環として行われ、多数の応募の

中から抽選で選ばれた親子17組、一般19名が参加して行われました。

参加者はそれぞれに実物の土器を見ながら、全員見事に完成しました。

野焼き当日は記録的な猛暑でしたが無事終了し、焼き上がった自作の土器を大切に持ち帰りました。

新宿六丁目遺跡現地説明会



新宿六丁目遺跡の現地説明会

9月13日(土)に今年度第1回目の現地説明会を行いました。

今年最高の気温を記録する中、江戸大名屋敷や中世の遺構群と遺物、また縄文時代早期の遺物などを見ていただき、参加者は506名でした。また、18日(木)には地元の小学校

を対象に現地説明会も行いました。

勾玉作り教室

今年度新規の行事です。毎回多数の応募者があり、抽選となりました。8月9日(土)親子24組、一般35名の参加者で行いました。

10月25日(土)とうきょう親子ふれあいキャンペーンで実施しました。

古代には翡翠や硬玉といった硬い石を使っていましたが、ここでは「青田石」という中国産の軟らかい石で作ります。勾玉の形をそれぞれに思い描き、紐通しの穴あけに苦しみながら、最後の磨く段階までの根気のある作業でしたが、親も子も終始熱心に制作していました。

人気のある行事となりそうです。



勾玉作り教室の制作風景

江戸開府400年記念

文化財講座「江戸遺跡から学ぶ」

14:00~16:00 <講師 当センター調査研究員>

第1回	11/5(水)	「復原された大名屋敷の変遷」	福田 敏一
第2回	11/12(水)	「江戸の火事」	江里口 省三
第3回	11/19(水)	「江戸の上水」	小林 裕
第4回	11/26(水)	「江戸のごみ(廃棄とリサイクル)」	西山 博章

[表紙写真解説]

永田町二丁目遺跡(千代田区)貝層を伴う土坑から弥生土器が出土しました。貝層からは人骨や獣骨なども発見されています。

映画鑑賞会

午前の部は「鉄腕アトム」と「アラジンと魔法のランプ」、午後の部は「食は江戸」「中里の火の花祭」「長江悠々」の5本を上映しました。参加者は78名でした。

R100

古紙100%配合の再生紙を使用しています。